



今年度も ありがとうございました

交流や様々な相談、研修会などを通して、今年度もたくさんの学校・園の子どもたちや先生方、関係機関の皆様と出会う機会に恵まれました。

交流に関しては、昨年度までの関わりを土台にして、お互いの子供たちが主体的に活動する姿が増えたように感じました。学校間交流や居住地校交流は、互いの学び場として貴重な時間だと思います。実施に当たり、交流相手校の先生方には、実施計画や本時案の提示、障害理解授業の授業づくりなどの御協力をいただきました。

相談や研修の際には、「〇〇をしてきたけれど今後の支援はどうあればよいか」「△△については変化が見られるが□□はどのように見取ればよいか」など、子供たちの姿や学校（園）等の取組を基に、次のステップへ向けた内容が多くなりました。

「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」については、研修や相談の際に話題なることがあります。

個人的な感想ですが、「〇〇すればできる」という視点で児童生徒理解を進めることが、良さに気付いたり合理的配慮について整理したりする機会になっているように思います。

本校が各学校（園）のニーズに応じ充実したセンター的機能を果たせるように、校内の実践を積み重ね、今後もお互いの顔が見える関わりを大切にしてきたいと思います。

地域支援部主任 丹波 舞子



この実践を本校でも紹介しよう

事前授業の内容を、交流で生かしてくれている！

研修会はこちらも勉強になるな

自分に合った学び方とは？

先日、高等学校特別支援チームでA高等学校を訪問しました。2年生コース別の学習であり、数学「微分法」の授業を参観しました。中学校まで知的障害特別支援学級に在籍していたSさんの学び方について紹介します。

Sさんは黒板に提示された問題の解き方の例を参考にしながら取り組んでいました。時間がかかりますが、自分で考えながらプリントに記入していました。先生からは、展開部分を気を付けるように言われ、そのことを意識しながら取り組んでいました。

計算していくうちに、今、どこを計算しているのか分かるように矢印を記入して計算していました。こうすることで、計算ミス減ることをこれまでの学習で身に付けており、活用していました。

集中の持続が難しい、忘れやすい、同時に複数のことができないなどの場合、小学校1年生では算数ブロックを使い、具体物を操作することで理解を深めます。学年が進むにつれて、指を使っている姿を他人から見られると恥ずかしいという思いから、計算の足跡を紙面上に残す方法に切り替えます。

どうすれば学びやすいのか生徒自身が体験して、自分で選択し、使えるようにすることが支援する側でも大切な視点であると思います。

「できない」から「どのような支援があればできるのか」人によって様々ですが、そのことを常に意識することを再確認しました。

【導関数の計算】

④ 次の関数を微分せよ。

$$(1) \quad y = 4x^3 - 2x^2 - 5$$

$\overset{4 \times 3}{\curvearrowright}$ $\overset{2 \times 2}{\curvearrowright}$

$$y' = 12x^2 - 4x - 5$$

$$(4) \quad y = 3(x^2 - 2)^2$$

$$= 3(x^4 - 4x^2 + 4)$$

$$= 3x^4 - 12x^2 + 12$$

$$y' = 12x^3 - 24x$$

相談・見学等の希望がありましたら、御連絡ください。

秋田県立大曲支援学校

教 頭：浅沼 和子（あさぬま かずこ） 北島 英樹（きたじま ひでき）

教 育 専 門 監：大川 康博（おおかわ やすひろ）

地域支援部主任：丹波 舞子（たんば まいこ）

特別支援教育コーディネーター：佐々木貴子（ささき たかこ） 森 愛子（もり あいこ）

特別支援教育アドバイザー：大沢 貴子（おおさわ たかこ）（大仙市立花館小学校内）

〒014-0072 秋田県大仙市大曲西根字下成沢 122

電話：0187-68-4123 FAX：0187-68-4122

部報「hand in hand」や依頼状の様式等は、大曲支援学校 HP からダウンロードできます。